

# 経営比較分析表（平成30年度決算）

埼玉県 川口市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	60.76	100.00	2,224	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
603,838	61.95	9,747.18
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
604,668	61.95	9,760.58

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
□ 平成30年度全国平均

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率は、下落傾向にあるものの、継続的に100%以上を維持できています。水需要の減少等により給水収益が伸び悩む中、施設の老朽化による維持管理費等の増加が見込まれ、事業環境は厳しさを増すものと見込まれます。
- ②累積欠損金比率は発生していません。
- ③流動比率は、年々減少傾向にあるものの、100%を上回っており、短期的な債務に対する支払能力は保有しています。特に現金の減少が続いているため、長期的な視点による現金の確保策の検討が必要です。
- ④企業債残高対給水収益比率は、企業債残高が減少したものの給水収益も減少した結果、比率は増加しています。将来の人口減少等に伴う水需要の減少を見据え、今後の建設投資事業を踏まえた適切な料金水準を検討するなど、経営改善を図っていく必要があります。
- ⑤料金回収率は、供給単価がほぼ横ばいであるものの給水原価が大きく増加したことから、100%を下回り、前年度から数量が下がっています。利益は確保しているものの、経営の安定化のために適切な料金収入の確保が必要があります。
- ⑥給水原価は、年々増加傾向にあり、類似団体より高い水準にあります。これは、設備償却費や維持修繕費等の費用の増加が主な要因となっており、事業運営に当たっては、施設規模の適正化などの投資の合理化等による経常費用の削減が必要です。
- ⑦施設利用率は、昨年度に引き続き上昇しました。配水量の動向を注視しつつ、今後の水需要を見据えた施設の再構築の検討が必要です。
- ⑧有収率は、類似団体よりも低い水準で推移し、前年度より低下しました。漏水調査の実施や老朽管の更新など、更なる有収率向上施策の推進が必要です。

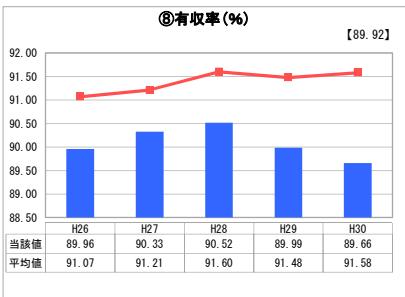
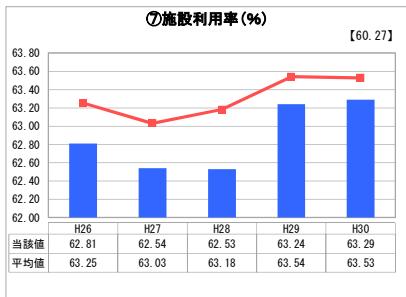
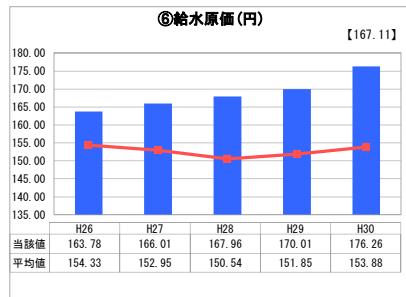
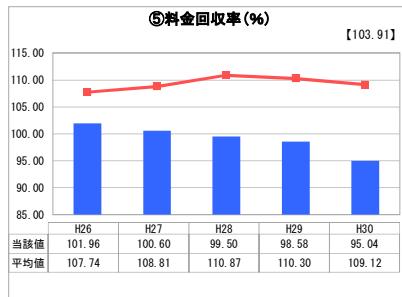
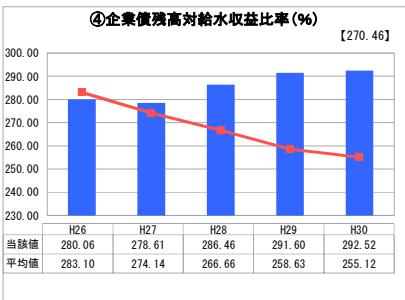
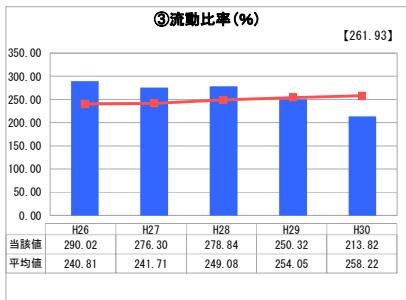
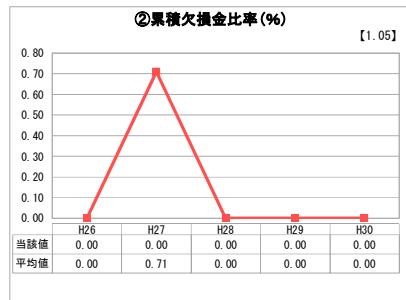
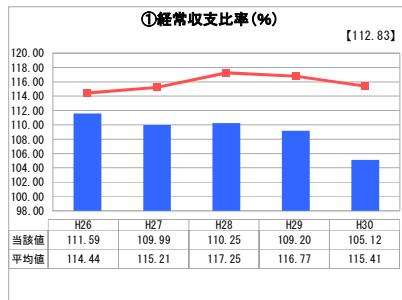
### 2. 老朽化の状況について

- ①②有形固定資産減価償却率及び管路経年化率は、類似団体よりも低い水準にありますが、年々上昇しています。更新需要が増大する中で、今後も、適切な維持管理とともに計画的な更新が必要です。
- ③管路更新率は、全国平均と概ね同水準にあります。管路の更新に当たり、当市では基幹管路を重点的に取り組んできましたが、今後は、配水管支管の更新にも取り組み、老朽管の更新を推進していくまます。

## 全体総括

- 経営の健全性・効率性において、当市は毎年度、当年度純利益を計上しており、概ね健全な財政状況にありますが、「企業債残高の増加や流動比率の低下など課題を抱えています。平成30年度に策定した「アクアプラン川口21～第3次川口市水道ビジョン～」に基づいた計画的かつ合理的な経営により、財政マネジメントの向上を図りながら適切な料金水準を検討し、更なる経営基盤の強化に努めます。
- 老朽化の状況においては、水需要が減少傾向にある中で、施設の老朽化は進行しており、引き続き、適切な維持管理に努めるとともに、施設規模の適正化など投資の合理化を最大限に図りながら、計画的な施設整備を推進していきます。

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況

